

テッポウユリの新品種“おきのこまち”と“おきのかおり” の育成経過と特性について

小林正芳・姫野正己・上原裕美
(鹿児島県農業試験場)

鹿児島県農業試験場では、ゆり類の新品種育成試験を行なっているが、埼玉県園芸試験場、農林省野菜試験場久留米支場等における、過去5ヵ年の系統適応性検定試験の結果、昭和38年交配のテッポウユリ2系統が有望と認められた。そこで、農林登録の申請を行なったが、5月12日の農林省育成農作物新品種命名審査会で、両系統とも、テッポウユリとしては、わが国で初めて農林登録されたので、その育成経過と特性概要について報告をする。

1. ゆり農林2号

品種名“おきのこまち、

昭和38年に、ジョージアを母、早生の喜界島野生の1系統を父とし、交配を行なった。その実生中より、昭和43年に1系統を選抜し、昭和47年に鹿系19号、昭和48年に南西11号と命名した。その後、諸特性能力等について検定し、今回、ゆり農林2号に登録された。この品種は



ゆり農林2号 ‘おきのこまち’



ゆり農林3号 ‘おきのかおり’

球根生産で密植ができ、球根の肥大が良く、増殖率も高い。促成栽培では、草姿花容共に優れ、小輪ではあるが、花弁厚く、花の日持ちが良く、各作型に適応した。国内切花用品種である。

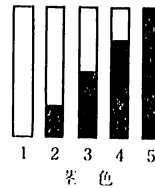
2. ゆり農林3号

品種名“おきのかおり”

昭和38年にジョージアを母、育成系統の2-5を父として交配を行ない、その実生中より、昭和43年に1系統を選抜し、昭和47年に鹿系24号、昭和48年に南西15号と命名した。その後、諸特性能力について検定し、今回、ゆり農林3号に登録された。

この品種は、球根生産で密植ができ、ボトリチス病の発生が少ない。促成栽培では、中晩生で、花弁の幅が広く、丸弁で、花が大きい。雄大な花容で、各作型に適した、国内切花用品種である。

定植8月4日
5号鉢植
供試球M球



第1表 新品種の超促成栽培における主要特性(昭和52年度)

品種名	開花日	花数	花径	花長	花向	茎長	茎色	葉数	葉長	葉巾	葉向	花容	草姿
おきのこまち	10月4日	2.8	11.5cm	12cm	4~5	69cm	1	64	11.5cm	2.0cm	4	◎	◎
おきのかおり	10・21	1.5	12.5	15	4	78	1~2	78	13.5	1.7	4	◎	○
ひのほと	10・3	2.0	13.5	13	4~5	75	1	76	12.5	2.0	4~5	○	◎

判定 優：◎ 良：○

第2表 新品種の促成栽培における主要特性(昭和52年度)

品種名	開花日	花数	花径	花筒長	花向	茎長	茎色	葉数	葉長	葉巾	葉向	花容	草姿
おきのこまち	2月16日	4	12.5cm	10.5cm	5	85cm	1	51	11.5cm	1.9cm	3	◎	◎
おきのかおり	2・24	4	14.5	14.5	4~5	92	5	69	16.5	2.2	3~4	◎	◎
ひのほと	2・12	3	14.5	12.5	4	87	1	63	13.5	2.3	4	○	◎
ジョージア	2・22	4	14.5	13.0	4~5	78	1	67	14.0	2.0	3	○~◎	○

定植10月26日 箱植 供試球M球